



# 志度高だより 一飛翔の窓

第90号  
(H22.4.12)

## 「母性はどこに」

いったい何が原因か？ まったく困ったもんだ。いやね、子どもの虐待がやたら多いと思って。自分が生んだ子を殴る蹴る。こういうのって昔もあったんだろうけど、最近は特にひどいんじゃないかな。目に余る。先日新聞に掲載された親なんか、子どもに食べ物を与えなかったという。5歳の子どもはやせ細って生まれたときの体重に近かったとか。もう人間じゃない。鬼畜そのものだ。昔の親は、自分がどんなに腹ぺこでも、ぐっと我慢してまず子どもに食べさせた。近頃の親は、言っちゃ悪いが親としての責任感が全般的に薄い。生んで虐待したり殺したりするんだったら、最初から生むな。子どもに罪はない。子どもをつくるというのは、人間も含め生き物の責任の最大のもんだ。なぜって？ そりゃ当然でしょう。命を育てるんだから。

ある日本人夫婦がフランスへ行ったときの話だ。その日本人夫婦はあるフランス人夫妻を自分のアパートに招待した。日本食でもてなし食事でも終わった。ワインを片手に四方や話に花が咲いた。ところが赤ん坊がおしめをぬらしたのか急に泣き出した。日本人の奥さんは優しく笑いながら赤ん坊のところに行った。フランス人の奥さんも赤ん坊を見ようと付いてきた。彼女は日本人の奥さんが手際よくおしめを換えるのを見て感心したが、次の瞬間ぎょっとなって目をひんむいた。優しくそうな奥さんなのにどうして？ そう思った。というのも赤ん坊のお尻が青痣だらけだったからである。彼女は迷うことなく言った。

「あなたは赤ん坊を虐待していますね。そういうことはこの国では絶対に許されないの。すぐ止めなさい」言われた日本人の奥さんはいったい何のことやらとんと見当がつかない。答えは、われわれモンゴロイドは生まれてしばらくお尻に蒙古斑が出る。それを赤ん坊虐待と間違っただのである。

こんなものもある。ある日本人夫婦が子どもを連れてアメリカを訪れた。レンタカーを借りて広大なカリフォルニアの大地を悠然と走っていた。ちょっと喉が渴いたので道路横のコンビニに立ち寄った。「お父さんとお母さん、すぐ帰ってくるから、ここで行儀良く待っててね」そう言ってその夫婦は店に姿を消した。こういう光景は日本でよく目にする。ところが、その夫婦がしばらくしてレンタカーのところに帰ってくると、パトカーが止まっている。何か事件かしら。夫婦が車に近寄ると、一人の警官が「この車はあなたのですか」ときた。「はい」「子どもはどうですか」「子どもと言いますと」「車の中の子どもはあなたの方の子どもですか」誘拐犯と間違われたのかしら。「ええ、私たちの子どもですけど。それがどうか」「じゃあ逮捕します」逮捕？ その夫婦が驚いたのは言うまでもない。アメリカでは犯罪が多い。誘拐もその一つ。カリフォルニアの州法では、親は子どもを一人車に残してはならないとなっている。夫婦は、

私たちは日本人でアメリカの法律のことは知らなかった、と抗議したが無駄だった。欧米社会では、子どもは厳しく育てるが、子どもの人権も尊重している。



ある学校の教師が部活動中生徒に体罰を加え右耳の鼓膜を破った。しかし、その教師は、愛情表現だ、と言った。まあ、私に言わせれば、前歯を折ったり鼓膜を破ることが愛情表現とは思えない。暴力だ。むかし小学校の頃、担任の先生に「お前たちは行儀が悪い。全員これだ」と拳で頭のとっぺんにぎりぎり拳をねじ込まれたことがある。これなんぞは鼓膜を破るに比べれば可愛いもんだ。私の基準で言えば、許せる。でも、どう考えても、それはやり過ぎだろう、というのはいけない。

所変わって北欧での話。不妊症で悩む女性が増えた。ある産婦人科医が調査に乗り出した。結果、化学物質に汚染された食物を長年摂取しているのが原因と分かった。男性の精子の数が極端に減少していたのである。最近コンビニの利用率が高くなって、健康によくはないものを口にする。学校に来るにも弁当を持ってこずに、コンビニの袋を下げて登校する生徒をよく見かける。食生活は体だけでなく情緒をも大きく左右する。ひょっとすると、母性とか父性も食べ物に影響されるのかもしれない。化学調味料いっぱいの食物を食べ、ろくすっぽ運動もせず、薬物中毒に罹った人間が子供をもけても、きちんと育てられるわけがない。

自分の血を分けた子どもを虐待したり、生まれたばかりの嬰兒をビニール袋に包んで捨てるなんていうのは絶対に許せない。無責任に子どもをつくるな。つくるなら、ちゃんと育てろ。